

私の受けた「一般教育ガイダンス」

山下 明 昭

『一般教育研究』編集部からご依頼があった「一般教育」について思いつくままで申し訳ないが少し述べさせていただく。

大学一年次の時、プリゼミの先生から「一般教育ガイダンス」を受けた。プリゼミの先生のお話しをお聞きするうちに将来の職業や専門のいかんを問わず、人間としての調和的な発達を目指すことがいかに大切であるか、そのために「一般教育」(general education)があり、すべての者が共通にもつべき教育として「共通教育」(common education)があることを板書をされながら教えて下さった。板書はさらに続き教養を意味する英語やフランス語の culture が〈耕す〉というラテン語から、ドイツ語の Bildung が〈形づくる〉という動詞からきていて、畑を耕すように人間の精神を耕し人格をより完全なものに形成してゆくことこれがヒューマンズムの精神とつながりキケロの提唱された《フマニタス》の理念ともつながりがあること、さらに第二のルネッサンスといわれる啓蒙主義との関係を述べられた。

先生は、G・スタイナーが述べた「多くの読書により、文学作品等の悲しみのほうには、するどく反応はするが、現実の地獄のなかは平然と通り過ぎる。」を引用され我々に問われた。いわゆる隣人の痛み、地球規模の問題点に対して何の反応も行動もおこさない。これは、何の為の「教養」な

のか、われわれは教育によっていかなる「教養」を養ってきたのであろうか。と問われた。誠に感銘を受けたしだいである。さらに先生は、大正時代から戦前にかけて日本の知識人を支配した教養主義と呼ばれるものについて述べられた。いわゆる青白きインテリ階級の専有物と考えられていたもの。教養主義の内容は政治的教養をふくまず、いわゆる文化的教養が主であり、観照的・静観的な人生態度を特色とし、明治の教養人は祖国を愛する情熱にもえ、社会改革、国家発展のため教養をつんだのであるが。大正、昭和の教養人が、個人の生活を愛したため、公的関心は極度にうすかったため、戦争中も時の権力にたいして何らの抵抗を試みることなく、ついに祖国を転落の悲運から救うことができず、戦後になって教養主義のこのような無力さが痛烈に批判されたそうである。

「教養」は自己完成を旨ざすとともに、政治性、社会性にも富むものでなければならない。すなわち教養のための教養であってはならず、隣人に、そしてひいては、地球規模に寄与しうるところの教養でなければならないと思う。《フマニタス》を提唱されたヨーロッパでも同じようなことがあったそうである。シェクスピアやゲーテを読んで文学の中で涙したり、神への祈りをしていた人々でさえ、アウシュヴィッツに対して魂の叫びも悲しみ感じず、また何

の行動もおこさない、ただの教養読書で終わったそうである。

私は、日本語を教える教師に過ぎず、人間改造の指導者でもなんでもない。しかし、本格的な日本語研究者を目指す留学生と出会う度に、私の「教養」を強く問われることがある。例えば、『L'autre japon Les Burakumins, Jean-Francois Sabouret』（1983年フランスから出版）のことやアイヌの方々のこと沖縄のこと、さらにアジア

の人々に行った侵略のことなどの疑問点について尋ねられることもある。「一般教養」との出会いがあったことにより授業（専門）というものに幅がもてていると思うのである。

学生時代喜びを感じながら授業を毎日受けることができたのは、「一般教育ガイダンス」のお陰である。また、深く人生観に影響を与えてくれ、且今も基本になっているのが「一般教養」である。

一般教育雑感

一 教 官

大学設置基準の改正をうけて、教養部の「解体」、専門学部への「分属」、新学部への「改組」など、教養部の改革をめぐる劇的なニュースが報じられている。してみると大学設置基準の改正は、やはり教養部を有する大学にとって必要な措置であったと言えるのかもしれない。

“鉄は熱いうちに打て”のことば通り、「教養部」改革を断行した大学には、それを支える全学的な条件があったからに相違ないが、「教養部」改革は、専門学部志向であるという印象は、やはり否めない。従って、これまで一般教育を担当して来た教養部を解体した後、「大学教育研究センター」等の新体制によって如何に一般教育を実施してゆくのかは、尚、未知数であり、今後の重要課題として注目してゆく必要があると考えてよいのではあるまいか。

「大綱化」は、四年一貫教育という視点と一般教育と専門教育を活性化するための自由を提供した。大学四年間を前後二年ずつに区切る横割りの制度を廃して、一般教育と専門教育の両者を四年一貫教育という縦割り（くさび型）に大改革するための根拠となったと思われる。これは、教養部をもつ大学にとって、いわば重要な「横のもの」を縦にする」という性質の大改革に他ならないが、もともと教養部をもたずに一般教育を実施して来た大学にとっては、新しいことでも珍しいことでもないと言える。何故なら、くさび型という名称で呼ばれる実施体制と「一般教育部」等の教養部に代る実施組織を採って来ているからである。

従って大学設置基準の改正は、教養部を有する大学にとって極めて重大な意味があるのだと言っても見当はずれではないと思